

角田市でのオオハクチョウに関する状況報告（第 1 報）

宮城県角田市の溜池付近で死亡していたオオハクチョウ 2 羽の死骸のうち 1 羽から遺伝子検査結果 A 型インフルエンザウィルス陽性が報道されました。

記

1. 宮城県角田市の溜池の位置

- 1) 1 月 5 日報道により、宮城県角田市豊室地内の市之丞溜池付近
- 2) この溜池を中心として監視区域 10km の円を作成すると、弊社契約農場のうち 6 農場が野鳥監視重点区域内に入ることが判明致しました。
- 3) 宮城県大河原家畜保健衛生所からの連絡が、該当 6 農場に有りました。

2. 地図情報

地図を添付致します。

3. 経過

- 1) 平成 23 年 12 月 26 日オオハクチョウが 1 羽死んでいるとの通報により、現地確認後、2 羽の死体を回収。
- 2) 26 日簡易検査をしたところ 2 羽とも陰性と判明。
- 3) 27 日 2 羽の死体は焼却処分
- 4) 1 月 4 日に(独)国立環境研究所にて遺伝子検査の結果、2 羽中 1 羽が陽性と判明。
- 5) 4 日発生地周辺 10km 圏内を野鳥監視重点区域に指定。
- 6) 4 日、北海道大学に確定検査の為検体を移送
- 7) 検査結果が出るまで 1 週間程度を要する。

4. 防疫管理体制

- 1) 危機管理対策本部を設置致しました。
- 2) 野鳥における遺伝子検査陽性報道に対する対策は、弊社「HPAI マニュアル」に規定されており、今回は 10km 圏内に限らず、範囲を広げて開始致しました。
- 3) 野鳥監視重点区域解除まで対策を継続致します。
- 4) 家禽での発生、及び鳥インフルエンザの発生には至っておりませんので、防疫体制の強化に努めてまいります。

以上

